

安曇野の原風景を巡る ふるさとウォッチングマップ

No.11

豊科成相新田地区

—物流の要衝から全ては始まった—

江戸初期、松本藩によって物資輸送の管理のため整えられた千国街道沿いの宿場町です。明治期以降になると、蚕種取引事業を核に町は活況を呈し、商店街は豊科銀座と呼ばれ、その南一帯は多くの芸妓や料理屋、劇場を擁する一大歓楽街となっていました。旧南安曇郡の郡都でもあったこの地は、あちこちに当時の賑わいの余韻を残しています。現在も飲食店が多く、昼夜を通して独特の味わいのある地域です。



編集・発行
安曇野ふるさとづくり応援団
URL <http://azumino-furusato.com>
※本マップは公式サイトからダウンロード可能です

◆コースタイム ※時間は歩速3km/時としての目安です（休憩含まず）

スタート 豊科近代美術館→約0.6km＊12分→旧豊科劇場→約0.3km＊6分→豊科郷土博物館→約0.9km＊18分→うろたえ橋→約0.5km＊10分→豊科駅→約0.7km＊14分→新田公民館→約0.4km＊8分→**ゴール** 豊科近代美術館

【合計】約3.4km：1時間8分

旧千国街道を軸に東西に地割された宿場町ならではの町並みを味わってみましょう♪



※私有地への立入はご遠慮下さい。



(f) 旧市川齒科
大正モダンを今に伝える貴重な建物



(e) 願満稲荷
商売繁盛を祈願し地元老舗商店が祀る



(d) 豊科郷土博物館
平成26年(2014)春35年ぶりにリニューアル



(a) 法蔵寺山門
伊藤長左衛門による山門とその彫刻



(b) 豊科公園
「記念公園」とだけあるのは何の記念なのか



(c) 旧豊科劇場
歓楽街の一角にあった劇場



往時の興行の様子（写真:酒井伸治氏所蔵）

平成26年度 長野県地域発元気づくり支援金活用事業

① 周岳山法蔵寺と成新学校

法蔵寺は、慶長16年(1611)松本藩の施策による成相新田宿開発に伴い、豊科吉野(梶海渡地籍)から移設された寺。明治時代には、画家・文人、啓蒙家の藤森桂谷が、この境内の宿坊を借りて私塾「成新学校」を開設し、新しい時代の人材育成をめざしました。穂高出身の自由民権運動家の松沢求策もここに入学し一年近く学びました。

【山門：県宝・鐘楼門：国登録有形文化財】



成新学校は明治6年(1873)から4年間開設

③ 旧豊科劇場

明治20年(1887)に一日市場にあった松ヶ枝座をこの地へ移築し、芝居小屋として開業。戦争の影響で閉鎖される劇場が多い中戦後も映画館などとして活躍し、娯楽の殿堂「豊科劇場」として親しまれてきました。蚕種取引業に沸く当時の面影を残す味わい深い建物です。現在は、いくつかの飲食店がテナント利用しています。



木板に手書きの宣伝の天井も往時のまま

⑤ うろたえ橋

成相追分からこのうろたえ橋までの一帯は、かつて料理屋業と芸者置屋業の二業種の経営が許可されていた地域。最盛期の大正9年(1920)には、料理屋70軒と芸妓81人を数えました。酔ってうろたえたもの、支払が出来ずうろたえたもの、色気にうろたえたものなどいろいろな“うろたえ”があったことでしょう。



「うろたえばし」の碑

⑦ 新田公民館 ~郡役所ゆかりの建物~

新田には明治24年(1891)から大正15年(1926)まで南安曇郡の郡役所があり、現在の新田公民館はその「代々郡長宿舎」でした。戦後、新田区が由緒ある建物を惜しんで農協から借金をして買い戻し、後日この借金を新田神社の松を伐採して返済。同神社分室となって以来新田公民館として愛されてきました。



郡長宿舎時代の姿
(『光跡30年』豊科町刊より転載)

② 豊科公園

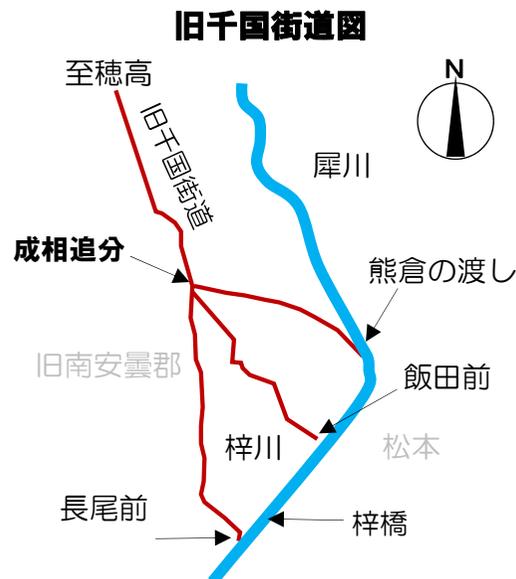
今上天皇・明仁の生誕を記念して造られた公園で敷地奥にその記念碑が建っています。他にも「豊科初の都市公園」という肩書や、遊具の形にちなんで「たこ公園」なる愛称もあります。桜の名所でもあり、かつては芸妓らによるさくらまつりが開催されたり、メーデーには労働者らの拠点ともなりました。開園以来地域に愛され続けている公園です。



開園間もないころの公園
(『懐かし写真館・昭和の街角』郷土出版社刊より転載)

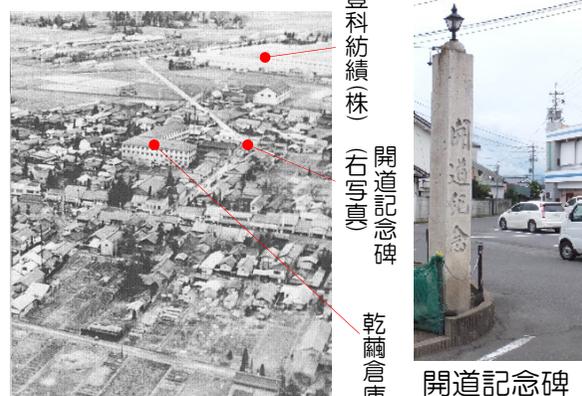
④ 成相追分 ~交通の要衝~

古来、松本から安曇郡に入る主な交通路の合流するところが成相追分。養老坂を越えて熊倉の渡しを経由する道、飯田前から吉野町を経由する道、そして梓橋上の長尾前から真々部町村を経由する道の3本が交わっていた場所です。



⑥ 時代の交差路

生糸事業がピークを過ぎた昭和初期、新たな経済政策を模索していた豊科町では、町長、議会、商工会一体で綿布工場の誘致に動きまわりました。昭和14年(1939)には呉羽紡績の子会社豊科紡績(株)が操業を開始。写真中央やや上のL字型の大型建築物は、シルク原料乾繭の倉庫。ここは繊維業の新旧主役が対峙する辻でした。



昭和30年(1955)頃の成相地区
(『光跡30年』豊科町刊より転載)

新田区商店の看板

旧千国街道沿いの歩道を歩く特には目線を少し上げてみてください。さまざまなしゃれた看板が目にとまります。これは、豊科近代美術館建設の際、新田区の事業者らが建設事業への協賛として、店舗の特徴を生かして設置したものです。その後道路整備の中で移動されたり取り壊されたものもありますが、写真のように活躍しているものも多くみられます。何屋さんか分かりますか。

